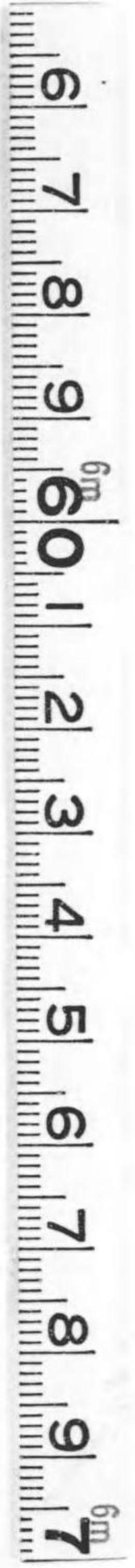


特 259

380

景清

昭和改訂版
外十三

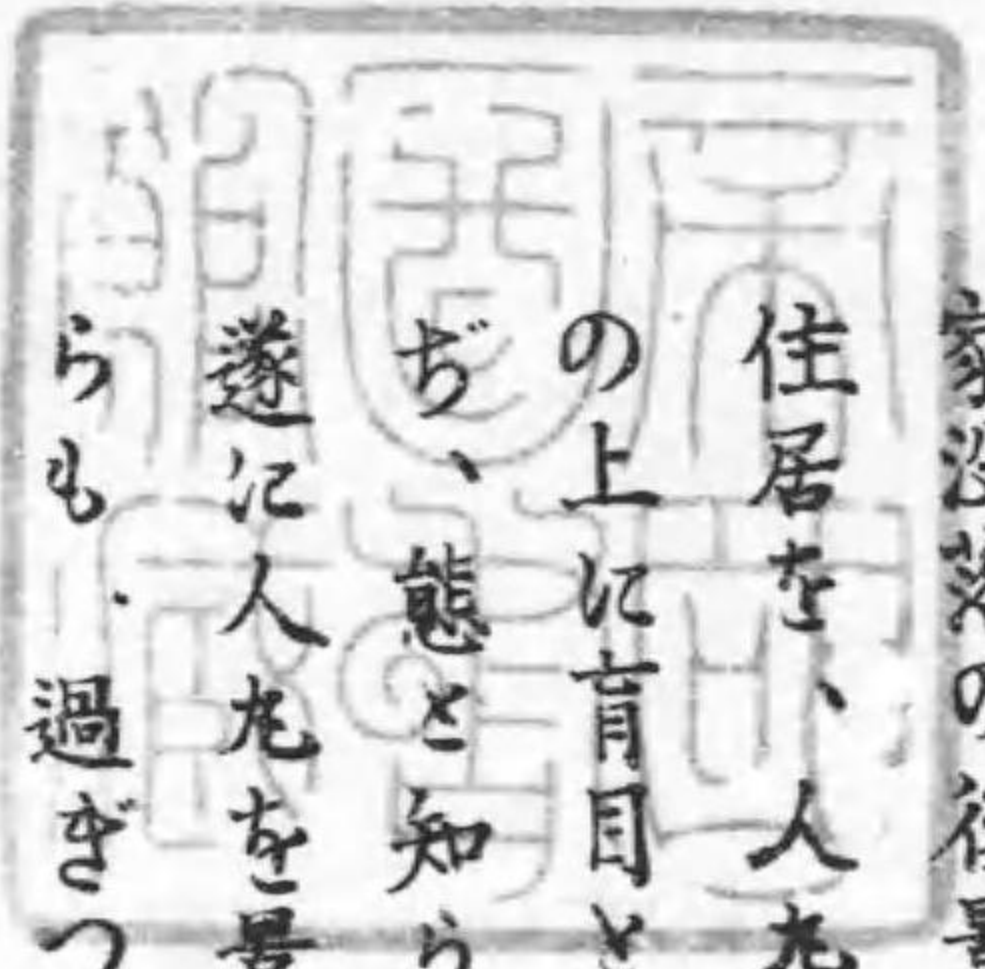


始



景清

〔梗概〕 悪七兵衛景清一年尾張の國熱田の遊女と相馴きて人丸と言ふ子
 設けしが、女子なればとて鎌倉龜が江が谷の長に預け置きぬ。扱て平
 家没落の後景清は日向の國宮崎に流され、松門獨り開ぢ籠もる佗しき
 住居を、人丸成長の後聞知りて鎌倉より遙々尋ね下りぬ。景清は老後
 の上に盲目とさへなりぬたれば、變り果たる己が姿のあさましきを愧
 ぢ、態と知りぬ體にて過しけるが、里人聲荒く景清々々と呼びかけ、
 遂に人丸を景清に對面せしめ、久しき親子邂逅の喜びよ、弱ぼひなが
 らも過ぎつる八島の戦にて三保の谷の鏖を引き高名せし時の様を語
 り聞かせ、昔勇將の俤を彷彿せしめ、やがて盡きぬ名残を惜しみつゝ、
 涙ながらに親子の別れとなりぬ。



シテ 悪七兵衛景清
 ツレ 人丸
 ワキ 里人
 ツレ 從者
 所 日向國宮崎
 季 不定

景清

男 弟 つぎ 上 ヒメ 連 ヒメ 連
 ありぬらん ヒメ 上 ヒメ 上 是もいづれか ヒメ 上 ヒメ 上
 人丸と申す女にさしあも我父悪七兵衛景
 清の平家此味方たるふより源氏よしく
 まれ日向の國宮崎より海を渡る

年月を送りぬふなるし
思ひぬるに
乃まぐらうおうじ事も旅の思ひ又父お
とんぼやく 思ひ祿の海く
枕をそくし
お探の國残立出
遠に雲をよほよ旅母の三河よ渡す

お日かむは
おめでたは
先づうへは
年月をおくり
お探の國残立出
遠に雲をよほよ旅母の三河よ渡す

ふか^ク影^カく^ク果^カは^カ出^カは^カひ^カて^カ法^カる^カあ^カふ^カま^カる^カ
ふ^カん^カさ^カ 一^カた^カふ^カお^カ婆^カや^カの^カら^カの^カま^カを^カい^カら^カぬ^カ
ま^カご^カい^カぬ^カひ^カて^カい^カた^カち^カは^カ目^カなる^カゆ^カの^カこ^カに^カ
て^カい^カら^カう^カよ^カ我^カ一^カ年^カ尾^カ法^カの^カ國^カ熱^カ田^カふ^カく^カお^カ
女^カよ^カお^カ婆^カ 中^カか^カふ^カあ^カま^カふ^カく^カ女^カ子^カな^カれ^カ何^カの^カ
判^カふ^カま^カい^カん^カか^カん^カ甲^カひ^カと^カ理^カを^カあ^カら^カに^カり^カお^カ

此^カ女^カは^カ預^カま^カさ^カる^カ一^カが^カ別^カぬ^カ親^カ子^カを^カ然^カ
一^カ女^カ父^カよ^カ何^カに^カ何^カを^カう^カを^カい^カ 上^カ 一^カ女^カを^カい^カお^カ
と^カ圖^カ影^カを^カい^カぬ^カは^カ目^カぞ^カ一^カき^カ名^カの^カこ^カで^カ
一^カ一^カ心^カ一^カ我^カ申^カと^カ親^カの^カた^カづ^カま^カい^カき^カく^カ
あ^カら^カふ^カお^カ里^カ人^カの^カは^カり^カら^カ 里^カ人^カと^カ承^カい^カひ^カ
流^カれ^カく^カ海^カの^カゆ^カぞ 流^カれ^カく^カ人^カの^カ形^カは^カや

あつらへしなれども あまあはれまへし あまあはれまへし
ても あまあまを あまあまに あまあまに あまあまに あまあまに

あまあまの侍急士 あまあまは あまあまに あまあまに あまあまに
今 あまあまは あまあまに あまあまに あまあまに あまあまに
あまの あまあまに あまあまに あまあまに あまあまに
を あまあまの あまあまに あまあまに あまあまに あまあまに

食 あまあまに あまあまに あまあまに あまあまに あまあまに
景 あまあまの あまあまに あまあまに あまあまに あまあまに
方 あまあまの あまあまに あまあまに あまあまに あまあまに
納 あまあまに あまあまに あまあまに あまあまに あまあまに
は あまあまに あまあまに あまあまに あまあまに あまあまに
あ あまあまに あまあまに あまあまに あまあまに あまあまに

今一度ちばは清の海にあらまはる由伝
らむらひておかしなるへはとて自ら申し
此事に景清よりかきかへたてぬり
し入^{あま}言^{こと}は道^{みち}影^{かげ}あは景清のは白女
ふと渡りゆりまづは心をたぬへとて
しむらひ^上景清の胸をたぬへとて

後方おかしに髪をおろし一日おのり
名をほきぬひらのちをいれ人をたぬへ
我おかしお者のあはかしおめてしては家
をほきぬひらうなるゆりてはまはるを
おかしぬへはあはかしゆりてはまはるを
持^もちぬへはあはかしゆりてはまはるを

を捨てたやにのちかんとてひ教隆よ...

物比喩をききコきクばほぐれは源氏の兵阿万上

すぼし上なてのけむるふ上わきたよ上お...

てん上く上あ上と夕日のき...

赤抱ひらぬら上あ上か上ま上ば上抱上...

をむ上く上ぬ上ら上回上か上た上し上ら上づ上ら上...

き上の上は上は上や上は上め上ふ上...

源上平上た上ら上ひ上も上ぬ上る上...

とぬ上事上の上案上れ上ち上お上小上後上より上...

何案上の上平上家の上侍上系上七上景上清上と上名上

宣上ら上や上平上ぬ上や上こ上ま上く上追上て上け上

其尾上ぶ上ら上さ上た上ら上け上る上曹上比上彌上を上ぬ上ら上づ上

383
3
546

著作權所有



昭和十三年八月廿五日印刷
昭和十三年八月三十日發行

定價金五拾錢

東京市下谷區上野櫻木町四十八番地

著作者 寶生新

東京市京橋區銀座西六丁目三番地

發行兼印刷者 江島伊兵衛

發行所 下掛寶生流謠本刊行會

揚と頼むる一はくはよとほるのぞこの
まじりあはれいみじくもわが子れうい
たふさふさ

終

